



今日のキーワード **経済成長を後押しするインドの来年度『予算案』**

インド政府が2月1日に公表した23/24年度（23年4月～24年3月）の『予算案』は、歳出総額が22/23年度の修正予算比で7.5%増の約45兆ルピー（約72兆円）の大型予算となりました。インフラ投資を中心に資本支出を同37.4%増に拡大、所得税の減税対象を中間層の一部に広げる一方、財政赤字のGDP比を削減する内容で、財政規律を維持しながら景気支援を行うバランスの取れた計画となりました。

ポイント1 **インドの『予算案』は景気支援型**

- インド政府は2月1日、来年度（23/24年度）『予算案』を発表しました。歳出総額は、今年度（22/23年度）の実績見込み（修正予算）比で7.5%増の45兆ルピーを計上する大型予算となりました。歳出における経常的支出は、補助金の支給見直しを反映し、同1.2%増と伸びが抑えられる一方、公共投資に相当する資本支出は10兆ルピーと、同37.4%増の高い伸びとなっており、景気支援型の『予算案』といえます。歳出項目別では、鉄道の同50.8%増などが目立ちます。
- さらに、『予算案』では、個人所得税の控除枠の上限を引き上げるなど一連の減税措置が盛り込まれています。主に中間層を対象にしたもので、消費拡大策も反映されています。

【インドの23/24年度『予算案』

(兆ルピー) (%)

	22/23年度		23/24年度	
	当初予算	修正予算	当初予算	伸び率
	a	b	c	b/c
歳入（税収等）	22.8	24.3	27.2	11.7
（借入金等）	16.6	17.6	17.9	1.8
歳出	39.4	41.9	45.0	7.5
経常的支出	31.9	34.6	35.0	1.2
利払い費	9.4	9.4	10.8	14.8
補助金	3.2	5.2	3.7	▲28.2
その他	19.4	20.0	20.5	2.5
資本支出	7.5	7.3	10.0	37.4
道路関連	1.9	2.1	2.6	25.4
鉄道	1.4	1.6	2.4	50.8
その他	4.3	3.6	5.0	38.4
財政収支	▲16.6	▲17.6	▲17.9	
（GDP比、%）	▲6.4	▲6.4	▲5.9	

(注) 伸び率は23/24年度の当初予算と22/23年度の修正予算から計算。

(出所) インド財務省のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 **財政規律への配慮もみられる**

- 23/24年度『予算案』は景気支援型であるものの、財政規律にも一定の配慮がみられます。財政赤字のGDP比は5.9%と、22/23年度の6.4%（当初予算、修正予算）を下回る水準に抑制する計画です。インド政府は25/26年度までに財政赤字のGDP比を4.5%未満に抑制するとの中長期目標を掲げており、財政規律維持の方向性を打ち出しました。

今後の展開 **23/24年度『予算案』は経済成長にとってプラス**

- インドの来年度『予算案』は、資本支出の拡大や中間層への所得税減税を通じて経済成長を促進する一方、経常的支出を抑制して財政健全化を進める内容で、バランスの取れた計画となりました。このため、インドのソブリン（国債など）格付けはポジティブに評価される可能性があり、中長期的な経済成長にとってプラスとなることが期待されます。ただし、来年は総選挙が控えているため、補助金の増額など財政規律の緩みには注意が必要と思われます。

ここも
チェック!

2023年2月 1日 **世界第3位に浮上したインドの『自動車販売台数』**

2023年1月18日 **高い経済成長を背景に堅調なインドの『企業業績』**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。